

令和8年度 年間授業計画

教科：芸術 科目：工芸Ⅰ 単位数：2

対象学年：第1学年

使用教材	教科書：	工芸Ⅰ（日本文教出版）
	補助教材：	なし

教科（芸術）の目標

【知識及び技能】	芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】	創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。
【学びに向かう力、人間性等】	生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

科目（工芸Ⅰ）の目標

【知識及び技能】	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて制作方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、工芸の働きについて考え、思いや願いなどから心豊かに発想し構想を練ったり、価値意識をもって工芸や工芸の伝統と文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
【学びに向かう力、人間性等】	主体的に工芸の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、工芸の伝統と文化に親しみ、生活や社会を心豊かにするために工夫する態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域		履修	評価規準	知	思	感	配当時数
			身	社						
3 学 期	単元 石彫ペーパーウェイト	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	○		○	次の観点別評価規準に従い評価する。	○	○	○	12
	知識及び技能	指導事項				知識・技能				
	作るものの役割を理解し、相応しい形状を想定してデザインすると共に、石材の触感や質感を活かし造形を行うことができるようにする。	石彫技法、工具の使用法				発想や構想したことを基に創造的に表すことができる。				
	思考力、判断力、表現力等	教材				思考・判断・表現				
	身近な生活の視点に立ち、自然や素材、自己の思いなどから発想や構想ができるようにする。	ワークシート、作品、振り返りシート				身近な生活の視点に立った発想や構想ができています。				
学びに向かう力、人間性等	一人1台端末の活用場面		主体的に学習に取り組む態度							
主体的に創造・鑑賞活動に取り組むことができるようにする。	記録撮影、講評会での振り返り		感賞強く制作に臨み、主体的に創造・鑑賞活動に取り組むことができる。							
単元 1年間のまとめ	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	○		○	次の観点別評価規準に従い評価する。	○	○	○	2	
知識及び技能	指導事項				知識・技能					
1年間の振り返り、言葉などで考えを整理し、作品について見方や考え方を深めることができるようにする。	1年間の作品の振り返り				1年間の振り返り、言葉などで考えを整理し、作品について見方や考え方を深められている。					
思考力、判断力、表現力等	教材				思考・判断・表現					
各作品の制作過程における工夫や素材の生かし方、技法などについて振り返ることができるようにする。	ワークシート、作品、振り返りシート				各作品について様々な観点で振り返ることができる。					
学びに向かう力、人間性等	一人1台端末の活用場面		主体的に学習に取り組む態度							
主体的に鑑賞活動に取り組むことができるようにする。	作品記録の見直し		主体的に鑑賞活動に取り組むことができる。							
単元	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	0		0	次の観点別評価規準に従い評価する。	0	0	0	0	
知識及び技能	指導事項				知識・技能					
0	0				0					
思考力、判断力、表現力等	教材				思考・判断・表現					
0	0				0					
学びに向かう力、人間性等	一人1台端末の活用場面		主体的に学習に取り組む態度							
0	0		0							
単元	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	0		0	次の観点別評価規準に従い評価する。	0	0	0	0	
知識及び技能	指導事項				知識・技能					
0	0				0					
思考力、判断力、表現力等	教材				思考・判断・表現					
0	0				0					
学びに向かう力、人間性等	一人1台端末の活用場面		主体的に学習に取り組む態度							
0	0		0							
定期考査（期末考査）/返却と解説										0
合計										70